

かほく市図書館 友の会だより

発行日 2017年7月25日

発行者 かほく市図書館友の会

〒929-1173 かほく市遠塚口57-6 かほく市立中央図書館内

第16号



平成29年度 かほく市図書館友の会 図書館見学会 参加者募集!!

今回は
能美市!!

☆全国レベルで貸出冊数の多い、能美市立図書館：根上・寺井の2館訪問

★石川県が誇る九谷焼「九谷陶芸村」で、九谷焼資料館・浅蔵五十吉美術館等見学

☆人口4万人以上～5万人未満の全国72市区を対象とした調査で、貸出冊数1・2位に輝いている能美市立図書館。

根上・寺井・辰口の3館のうち、今回は根上・寺井の2館を訪れます。貸出冊数が多い秘密を探りましょう。

★「九谷陶芸村」では、九谷焼資料館の見学の後、浅蔵五十吉資料館や専門店等を自由にご覧いただけます。

日時 平成29年9月28日(木) 9:00～17:00

見学先 能美市立根上図書館、能美市立寺井図書館、九谷陶芸村 等

募集人数 24名

参加費 昼食代と入館料 2,000円

(当日集金。高速料金等は会から助成します。)

交通 かほく市マイクロバス

日程 8:50 中央図書館前に集合

9:00 マイクロバスで出発

10:00～11:00 能美市立根上図書館の見学

11:10～12:10 能美市立寺井図書館の見学

12:30～14:00 昼食：二兎(にと)：和定食

14:15～15:30 九谷陶芸村見学

17:00 中央図書館帰着・解散



☆時間に余裕があれば、「JAほがらか村(野田)」に寄りたいと考えています。

☆現在の予定です。大きく変更がある場合のみ、申し込まれた方に連絡いたします。

申込先 星名 葉子(友の会会長) 090-2035-1220 ※図書館申し込みではありません

申込方法 直接に電話で、できるだけ早くお申し込みください。

予定の募集人数に達した時点で、締め切らせていただきます。

第11回 友の会の集い 8月6日(日) 13:30～15:30 かほく市立中央図書館 2F 研修室

①「南ドイツの旅報告～写真紙芝居と昔ばなし～」(講演)：50分程度

鈴木晶子氏(かほく おはなしボランティア やまんば 副代表)

②「おすすめのこの1冊 Part3」(交流)：40分程度

☆1部は、昨年10日間「第23回昔ばなし大学研修旅行：南ドイツの旅」に参加された「やまんば」副代表鈴木さんのお話です。

日頃、「やまんば」のメンバーとしてご活躍の鈴木さんですから、南ドイツの風物・体験も、独特の切り口のことと思います。撮られた写真を使った手作り紙芝居で、伝えてくださいます。

ろうそくを灯し、エルツァッハの森を感じながら、グリ

ムのおはなしも語ってくださいます。

☆2部は、お馴染みの「おすすめのこの1冊」の交流です。もう3回目になります。

出欠確認のはがきに書いていただいた「紹介したい本」の一覧を見ながら、話して下さってもいいですし、「聞かせてほしい!」とお願いしてもいいと思います。

肩の力を抜いて、好きな本について交流しましょう。

★会員以外の方の参加也大歓迎です★

第6回 図書館友の会 総会開かれる

～6年目に突入～



山越 充教育長

5月28日（日）かほく市中央図書館において、第6回かほく市図書館友の会総会が開催され、31人が参加されました。

来賓の山越充教育長のご祝辞のあと、津幡善枝さんを議長に選出し、平成28年度事業報告及び決算、規約改正、平成29年度役員及び事業計画、予算を協議し、承認されました。役員は2年任期のため引き続き昨年度と同じメンバーが務めます。



西田幾多郎記念哲学館 中嶋優太研究員

議事終了後、西田幾多郎記念哲学館研究員である中嶋優太氏をお招きして、「身近な哲学」と題した講演を聞きました。

「哲学」と聞くと、非常に難しいもの、自分には縁のないものと思いがちですが、「考える」ということそのものが哲学なのだそうです。日常の中に、心と考える時間を持ってみる。そんな時間を得に哲学館を訪れてみてはいかがでしょうか。



紹介された哲学に関する本

中嶋研究員に聞きました！

—総会の講演の中で哲学は難しいという声が多くありましたか？

一般的にはそう思われているのだろうな、と。もっと身近になってもらえたらと思っています。

—哲学館職員に応募したきっかけは？

西田幾多郎を専門に研究をしていました。このお話をきいたときに、これを仕事にできたらとすぐに応募しました。

—かほく市に来てびっくりしたことは？

西田幾多郎について授業をしていること。京都の大学では、哲学の理論の中身を勉強してきていたが、かほく市では西田幾多郎が身近にいて人間味のある人だということが知られている。新鮮な驚きでした。

—小学校で行う哲学の授業の反応は？

子どもは反応が素直で楽しいです。わからないとすぐに「なんで？」と質問してくれる。

—他県から越してきた中嶋さんから見たかほく市民は？

率直な人が多いと思いました。どちらかというに関西圏というか…。とてもやりやすいです。

—かほく市に住んでみての感想は？

魚がおいしいです。

—今後どのようなことに取り組んでいきたいですか？

“自分たちが考えることが哲学”だということが広まってほしい。作品を勉強するというよりも作品を作るように哲学をする、ということを感じてほしい。そういう取り組みをしていきたいです。

—哲学館では入門講座や哲学カフェなど様々な取り組みをされていますが、企画は中嶋さんが？

テーマや講師の先生などは、私が考えたりしますが、中身については職員の人々と一緒に考えて運営しています。

—最近のテーマは女性の私から見て、興味が惹かれるものが増えたように思います。

そうですね、女性が参加しやすいテーマなども考えています。みなさんに哲学館に気軽に足を運んでもらえるようにと思っています。



わたしのおすすめ本

日本例話大全書



有馬朗人 [ほか] 監修

今回ご紹介する本は「日本例話大全書」です。古代から現代まで語り継がれてきた日本の昔話や寓話、逸話、家訓、偉人伝エピソードなどを集めた本です。

第1部 生老病死、第2部 日本の心の源流、第3部 日本人の生き方、第4部 人と人のふれあい、第5部 助け合いと奉仕の精神の5つの部門で構成されており、それぞれさらに細かい章に分かれています。主人公となる人物や歴史的用語、難しい言葉にはルビや補足説明もあるため、読みやすくなっています。また、テーマ別に分かれていますので、もう一度好きな話を読みみたいときも、探しやすいです。数ある中から、どのお話にしようか、と選ぶ方が難しいかもしれません！

ここで、私のお気に入りである「三粒の大豆で作られた大仏」を少し紹介します。

栃木県宇都宮市善願寺には、5メートル以上もある見事な大仏が鎮座しています。この寺の和尚は、住民の安全を祈念して大仏を建てたいと思い、3年も托鉢をして歩きましたが、浄財はなかなか集まりませんでした。

ある日、一人の老僧が訪ねてきました。和尚の悲願

を聞くと、袋の中から小さな大豆を三粒取り出して、「この種を境内に蒔くと、秋には百粒収穫でき、それを檀家に三粒ずつ分け蒔いてもらって来年には何万粒にもなり、それを毎年繰り返し寄進してもらえば、資金になるはず…」と言いました。和尚は、言葉どおりに実践し、十年後にはお金を調達することができたのです。この大仏は、托鉢の大仏、三粒の大仏と呼ばれ、今でも皆に慕われているそうです。

この江戸時代のお話も好きですが、このほかにも、昭和の頃ラジオで聞いていた柳家金語楼の子供の頃の話など、楽しいお話もたくさん載っています。

そして、私が一番うれしかったことは、人物伝に西田幾多郎先生のお話が載っていたことです。宇ノ気小学校を卒業した者としては、うれしい限りです。

有名人に限らず一般人まで、幅広い話がたくさん載っており、悲しいとき、うれしいとき、それぞれの場面で人々を勇気付け、心を豊かにする読み応えのある一冊です。みなさんにも手にとっていただき、ご自分の大好きなお話や、大切な人に紹介したいと思うお話を見つけていただければと思います。（松原ケイ子）

友の会 談話室

実は方言だった?!

先日、知人との会話で「よしかかる」という言葉を私が言ったとき、相手は首をかしげ不思議そうな顔をしたのでした。方言であることがわかり、「寄りかかる」という意味であることを伝えました。そのとき、10年ほど前の出来事を思い出したのです。

それは職場でのこと、ポスターを壁に貼り終えた私は、「かたがっていませんか？」と同僚（県外出身）に確認したのです。すると、「ハあ?・・・」と、さらに「時々訛りますよ（笑）」と言われました。

仕事上で使う言葉は、訛っていないし方言も話さないと思っていたので驚きです。辞書で調べて納得したのですが、「かたがる」は共通語ではないと、初めて知って衝撃を受けたのでした。

インターネットで調べれば簡単に情報を得ること

ができますが、気になった言葉があると、日本語の大辞典である『日本国語大辞典』で調べます。大きくて重く、全13巻もある辞典です。もちろん家にはありませんので図書館で調べます。

この辞典は、言葉の説明が詳細で、記録に残る最も古い使用文例なども掲載されています。いつどのように使われていたかがよくわかり、知る楽しみは尽きません。

ちなみに「かたがる」と「よしかかる」は、しっかり<方言>と書かれていました。ほかにも、仲間に入れてほしいときの「まぜて」など、気づかないで使っている方言は意外に多いのかもしれないね。

(T子)

読書カフェ vol.20 を 見学してきました！

かほく市立中央図書館主催の読書カフェは、課題本を読み、当日その本について語り合う会です。

今回の読書カフェは、13名の老若男女の方々が参加していました。

本に対する「自分の思い」を話し、みんなの感想も聞

6月29日(木) 19:00~20:30

西田幾多郎哲学館 5F 展望ラウンジ

課題本「夜のピクニック」恩田 陸・作

き、時に共感し、時に反対の意見を述べる。そして笑う、頷く。真面目なイメージかと思っていましたが、和やかで包容力のあるカフェでした。今年度はあと3回開催されるようです。参加されると楽しいこと請け合いの読書カフェです。

友の会活動予定

●リサイクル本収集

かほく市立中央図書館
階段下のリサイクル本入れで
常時受け付けております。

ご寄付ありがとうございます！
今後ともよろしくお願いします！

●応援ボランティア

やってみたいと思う方は
ボランティアルームまで
おこしてください。



【開催日時】

■ 8月（夏休み期間）10:00~11:30

8月1日(火)、8月8日(火)、8月22日(火)、8月29日(火)

■ 第1・3・5週 14:00~15:30

■ 第2・4週 10:00~11:30

9月5日(火)
10月3日(火)、10月17日(火)、10月31日(火)
11月7日(火)、11月21日(火)

9月12日(火)、9月26日(火)
10月24日(火)
11月14日(火)、11月28日(火)

【作業内容】 本の書架整理、汚れ落とし、修理などを行います。

編集後記

先日、大阪に行く機会がありました。ただし、旅行…ではなく、勉強会に参加するための日帰り出張でした。(泣)
せっかく食い倒れの街 大阪に行けるのだから、ランチは大阪ならではのものを！と思いましたが、勉強会は午後1時半開始のため、お店は会場近くに限られてしまいます。「選択肢も限られるし、駅の中でいいか…」と、駅構内の飲食店を検索。すると、なんとなく聞き覚えのある「北極星」という店名が目にとまりました。

このお店は、宝達志水町の『オムライスの郷プロジェクト』のきっかけとなったお店だ！と気づき、オムライス好きなこともあって、迷うことなく決定。「きのこオムライス」を注文しました。

昨今、卵を多く使ったトロトロ系が人気のようですが、北極星のオムライスは、昔ながらの薄焼き卵でありつつ半熟の部分も残っていて、中のチキンライスはあっさりとした味付け。隣に座ったオジサマもべろりと平らげていました。結局、石川に縁のあるものを選択していたのですが、とても満足しました♪

(M.I)

現在の会員数 128 名

入会のお申し込みは、中央図書館サービスカウンターにて随時受け付けております。